

## 平成23年第1回定例会（3月）一般質問

### （1）平成23年度における重点的取り組みについて

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君、発言願います。

○ 議員 宮下裕美子 質問に先立ちまして先ほど先輩方もおっしゃっておりますが、東北太平洋沖地震に対して被災された方、お亡くなりになった方にお見舞いとお冥福をお祈りいたします。それから対策及び救助にあたっている方に対してもぜひ支援して頑張っていたきたいと願っております。

それでは質問に入ります。まず町長に平成23年度における重点的取り組みについて質問いたします。定例会第1日目に述べられた平成23年度町政執行方針に対し私は総花的な印象を受けました。例年どおり総合振興計画に沿って述べられているので 分野別の課題や取組は理解できました。しかしそれらを統合した上での月形町の方向性が私には見えてきませんでした。過去の執行方針ではその時々で注目点が述べられています。例えば平成21年度の場合、執行方針の後の質疑で私が今回と同様の質問をした際に町長は、老人対策として一つは医療をきちんと守っていくことであると考えておりますし、もう一つはこれからの時代をつないでいく子どもたちのための施策をきちんとやらなければならない。この二つが私たちの町の最大重要課題であると答弁し、医療と子どもたちのための施策に言及しています。平成22年度においては、市町村合併問題を終息させるべく自立によるまちづくりを宣言し、これを起点にした執行方針が語られたと認識しています。

それでは平成23年度はどうか。平成23年度の注目すべき分野、または重点的に取り組む課題とは何か、町長にお伺いいたします。

○ 議長 吉田 義一 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 お答えさせていただきます。毎年、町政執行方針については私たちの町の最上位計画である総合振興計画の順位で述べさせていただいているところであります。ただ今、宮下議員ご指摘のとおり、私が就任した時には小泉政権時代でもあり、三位一体改革という流れの中で平成19年までは地方交付税が削減されていくところで、待ったなしの財政改革をしなければならないという行政的なテーマとするものがあり、それについてはその間ずっと述べてきていますし、平成21年度の町政執行方針では、市町村合併についても私たちの町としての住民投票からはじまる一つのテーマでありました。その取り組みについて一つの結論として出さなければならない時期でありましたから、それをテーマとして謳ったところでもあります。

今年、そのような意味での行政的な大きな課題は見えてきていないというのが実態であります。総合振興計画に基づき、それぞれ述べたことは全てが重要なことでもあり、その時々テーマでつなげてきたことをより光らせ磨いていくのが今年のテーマであると考えているところであり、それが私の思いであります。一点だけ町政執行方針の冒頭に述べさせていただいていますが、130年という節目の式典が終わった今年、実は北海道地域創造フォーラムということで、北海道では初回が伊達市、二回目が稚内市、三回目の昨年が松前町で行われたPHP総研、小説家童門冬二さんが関わった地域創造フォーラムの第四回目を月形町で行いたいと考えております。これについては歴史をたどりそこから今新たな形として何ができるかということが、いわゆる地域創造フォーラムのテーマであります。過去3回において出演しているパネリストは、それぞれの町で違う状況でお話をされていて、私は伊達市と稚内市に出席していますが、今回、私がやりたいテーマとしては北海道の開拓における囚人開拓を一つのテーマとして、月形は私、三笠市長、標茶町長、都合が付けば網走市長にも出席していただく形でフォーラムをやりたい。もう一度、歴史をしっかり学び取りそこから私たちの町を大きく展開していく機会にしたいと思い、町政執行方針に書かせていただいたところでもあります。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下裕美子 今の答弁の最初にそれぞれ重要な課題があるのでそれぞれを光らせていくことが今年のテーマであると言っていたので、私もその形の中で分散型でありながらもそれぞれを丁寧に見ていく方法もあるのかとも考えていますので、その点はぜひとも進めていただきたいのは一つにあります。過去から見ても町としてキャッチフレーズではないですが、きちんと町民の皆さまに伝える時に何かそれらを統合したようなうまい言葉があれば、それできちんと町長の思いや執行の方向性を伝えることができるので、分かり易い言葉があれば示していただければと思います。

それから先ほど言っていた北海道地域創造フォーラムですが、今、執行方針でも大きく取り上げられて今の答弁でもこれが大きく取れ上げられているということで、町長の中では歴史が大きなウエイトを示していると思いますが、それらと現実問題として先ほど来、指摘した21年度から医療や子育てそして自立のまちづくりの方向性を示した中で、その部分と歴史を振り返るといところがどうしても一気にはリンクできないので、それらを結びつけるような、何か歴史を学びながら月形の未来を考えるとところから現実に落とし込むというところで補足することがあったらお伝えいただきたいと思います。

○ 議長 吉田 義一 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 地域創造フォーラムということで、歴史を振り返り現実にどのように生かしていくのかということですが、この主旨に基づいたところでそれぞれ町の施策の中に落とし込めということですが、これは現在この場で即答はできないと正直なところ考えておりますが、ただ、私たちの町の樺戸監獄・樺戸集治監という歴史は全国的にも極めてまれなケースとしてありますし、これをしっかり後世にも伝えていかなければならないし、北海道内についてもほとんどが知られていない現実がありますので、それをしっかり知らせていくことは大変重要なことであると思っております。

もう一つ、表現としてということがありました。これは執行方針には書いていませんが、月形学園の学園長が月形刑務所の内容を話している中に、「千人を超える受刑者がいる状況で刑務所内収容者の雰囲気が決して悪い状況ではないし、穏やかな状況にある。」というところで、月形町が「まんまるはーと月形町」というキャッチフレーズで動いている訳ですが、これが他の町から来て住民の皆さまの心情の穏やかさが町に住む刑務官の人たちの心持ちにも影響を与え、ひいては刑務所内の状況にも影響しているのではないかというお話をされておりました。これは全く町内に住む私たちでは感じ取ることができない感覚ですが、これをしっかりとつなげていくことが私たちの町の良いところだし、このことを光らせていくべきではないかと現在考えているところであります。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下裕美子 町長の考えは理解できました。いずれにせよ歴史なども含めて後世に伝えることは重要ですが、それと合わせて日々の課題をいかに解決するかということもしっかりしていただきながら、23年度を執行していただきたいと考えております。